

コミュニティ・スクールだより

問 氷川町小中学校コミュニティ・スクール連携協議会事務局（学校教育課内） ☎0965-52-5859

いよいよ今月4日「CSの日」開催！

11月4日（土）「CSの日」に向けて、両中学校区のCS委員を中心に子どもたちと一緒に取り組んできました。地域の皆さんにもご協力いただきながら、子どもたちの学ぶ機会を応援してもらいました。本番では子どもたちがいきいきと活動する姿を見せ応えてくれることでしょう。今年度は、地域の多くの皆さんにも見ていただければと思っておりますので、どうぞ子どもたちの頑張りをのぞいてみてください。

竜北中学校区「オータム交竜会」

時間 9時40分～10時25分

場所 竜北西部小・竜北東小各教室

内容 中学2年生が「自分たちが学んだ氷川の魅力」を母校の小学生に伝えます。



本番に向け、アドバイスを受ける中学生

氷川中学校区「防災教室」

時間 8時30分～11時30分

場所 各地区公民館付近～避難場所

内容 「自分の避難マニュアル」を作り地域のひとと地区防災について学びます。



地域の危険箇所を確認する中学生

地域学校協働本部だより

問 氷川町地域学校協働本部（生涯学習課内） ☎0965-52-5860

氷川町“五者連携”の魅力を発表

「令和5年度熊本県社会教育研究大会・第68回熊本県公民館大会合同大会inやつしろ」にて、稲本CSディレクターと古閑推進員がCSと地域学校協働本部の連携しての取り組みを発表しました。町では「地域の子は地域で育てる」をスローガンに、行政の力をベースにCSと地域学校協働本部との連携・協働が行われています。地域の方々の協力を得ながら行う学習支援や子どもを含む“五者連携”で取り組む「CSの日」など多くの事例を発信しました。これからも子どもたち・地域の方々との交流とつながりの魅力を、町民の皆さんをはじめ県内の方々に発信していきたいと思えます。



ソーイングの秋

食欲の秋、読書の秋などといいますが、9月から10月にかけてソーイングのサポート要請が多くありました。宮原小6年生がナップサックを、5年生がエプロンをそれぞれミシンを使って作りました。竜北西部小5年生は玉結び・玉止め・波縫いを使ってイチゴのマスコットを作りました。氷川中2年生はミシンでトートバッグを作ります。地域の皆さんの見守りの中、手作りの楽しさを感じながら取り組む子どもたちの姿が、とてもすてきでした。これからどんどん秋は深まります。ソーイングの要請お待ちしております。



竜北東小

力を合わせて！宿泊通学体験

宿泊通学体験が4年ぶりに実施されました。「最強・最高学年へのまともに向かうため、Our Teamとして団結し、みんなのために協力する力と心を身に付ける」という目標の下、2泊3日クラスメートと過ごしました。普段とは違った生活の中で、友だちと協力することの大切さや家族の大切さを改めて感じることができました。



宮原小

詳しく学べた！「三神宮秋季例祭」

宮原小学校区では、毎年10月13日に五穀豊穡に感謝する祭りとして、三神宮秋季例祭が行われます。伝統ある地元の祭りを5・6年生に詳しく学んでほしいという願いから、CS委員の村山賢一さんに祭りについての講話をしていただきました。

子どもたちは、祭りの歴史や三神宮の名前の由来、祭りにかける地元の方々の思いを聞き、祭りへの参加の気持ちを高めていました。



氷川中

氷川中プライド！

最上級生、実りの秋！

秋の気配を感じながら、氷川中生は、さらなる高みに向けて毎日を頑張っています。学力向上に向け、3年生を中心に多くの研究授業などの中、主体的な学びを続け、三神宮秋季例祭参画への実行委員会やポニー奉納のお祓い、練習も地域の方のご支援で準備が進んでいます。中体連駅伝大会、三神宮秋季例祭、研究発表会など本番での活躍をお楽しみに！



氷川っ子

スクールニュース

各校の「氷川っ子」の取り組みを紹介します。

竜北西部小

タイピング王にわたしは、なる！

9月16日に第2回「西部小版タイピング検定」を開催しました。この検定は、情報活用能力の基盤となるタイピング技能の向上を目指すものです。今回は3年生から6年生の子どもたちが検定を受けました。どの子も、上級獲得を目指して真剣な表情でした。2学期からは、毎月検定を行っています。子どもたちには、これからもどんどん上の級を目指して練習にも取り組んでほしいです。



竜北中

心のきずなを深める全校集会

9月15日に「心のきずなを深める全校集会」を行いました。本校では学活や道徳の時間などを中心に、人権やいじめ問題などについて学習してきました。今回の集会では、これまでの学習で学んだことや感じたことを発表するとともに、各学級で考えた「学級人権宣言」を紹介しました。これからも一人一人が大切にされ、思いやりあふれる学校をつくっていきます。

